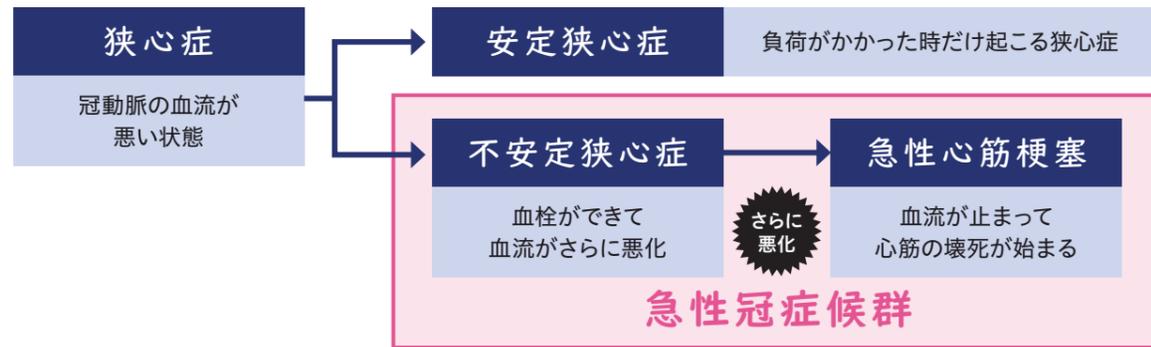




一刻を争う 重大な病気。 発症1時間で亡くなることも…

急性冠症候群 (Acute Coronary Syndrome ; ACS) は急性心筋梗塞や不安定狭心症などの総称で、心臓の筋肉に血液を送る冠動脈が閉塞し、栄養や酸素が不足して心臓にダメージをきたす病気です。冠動脈の血流が完全に止まると心筋が死んでしまい、一度壊れた心筋は生き返ることができません。急性心筋梗塞を発症すると1時間以内に亡くなることが多く、約30%の方が病院に到着する前に亡くなってしまいます。



こんな症状があったら、 すぐに119番しましょう！

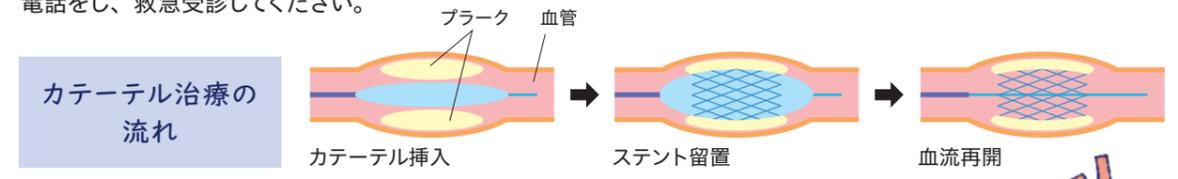


急な冷や汗を伴う胸痛

経験したことのない胸苦しき

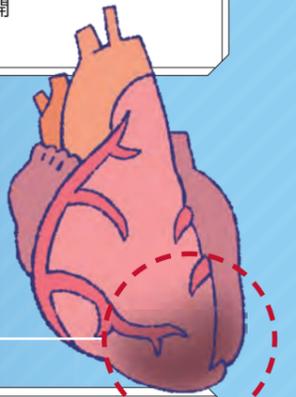
一般的な狭心症の症状は、胸の中央部に圧迫感や締め付けられるような痛みを感じます。安定狭心症であれば症状は10分以内で治まり、発作が頻発する場合は不安定狭心症です。外来を受診して、適切な治療を受けてください。急性心筋梗塞は急に冷や汗を伴う胸痛を感じたり、今まで経験したことがない胸苦しきに襲われます。自覚された場合にはすぐに119番に電話をし、救急受診してください。

急性冠症候群は心臓の血液の流れを早急に再開させることが必要で、緊急で心臓カテーテル治療を行います。具体的には手首や足の付け根からカテーテルという細い管を挿入し、血管が詰まっている部位や狭くなっている部位にステントと呼ばれる金属の網状の筒を留置し、心臓のダメージを最小限に食い止めることを目指します。



皆さんにとって、「急性冠症候群」は聞き慣れない病気かもしれませんが、実は身近な心臓の病気で、命の危機が迫る重篤な状態です。今回はこの病気の原因や予防法についてご紹介します。

冠動脈が詰まり、心臓が壊死する病気です



ある日突然
命を失うことも…

心臓病で特に危険な

急性冠症候群



脂のゴミと血の塊が、血管を詰まらせる

なぜ冠動脈が閉塞してしまうのでしょうか？その原因は「プラーク」と呼ばれる脂のゴミにあります。

動脈硬化が進行すると血管の壁にコレステロールが徐々に蓄積し、プラークを形成します。このプラークが血管の内腔を狭めますが、何らかのストレスでプラークが破れると、中に入っていた脂のゴミが血管にあふれ出し、血管の傷を修復するために血小板が集まって「血栓」という血の塊が生じます。さらに血栓がプラークの中身とともに急速に大きくなると冠動脈が閉塞し、急性心筋梗塞を発症するといわれています。

